

## 医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	腹部大動脈瘤の進展に関わる線溶反応の役割
研究責任者	田中宏樹
研究機関名	医生理学
研究目的と意義	慢性炎症を伴う疾患の組織破綻・修復に Plasminogen activator (PA)/plasmin 系の線溶反応が重要な役割を果たしている。本研究では、腹部大動脈内腔での血管内線溶だけでなく、巨大な血栓から脆弱化した大動脈壁に至る領域での組織線溶が動脈瘤形成に関与していることを病理組織学的に検証する。
研究期間	西暦 2015 年 10 月（倫理委員会承認後） ～2020 年 9 月
研究方法	<p>●対象となる患者さん：本院第二外科に来院（2011 年 6 月～2014 年 5 月）し腹部大動脈瘤と診断され手術を施行した患者さん</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1)血液 10mL</p> <p>(2)腹部大動脈瘤壁 500g</p> <p>●研究方法</p> <p>血液や血管壁に含まれている線溶反応カスケードに関与する物質の活性を定量、網羅的遺伝子発現解析、脂質分子プロファイリングの確立。</p>
問い合わせ先	〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：医生理学講座 担当者：田中宏樹 TEL：053-435-2247 FAX： E-mail：tanakah@hama-med.ac.jp